

学校教育目標	「ともに生きる子 ー信頼と安心と笑顔の学校ー」 学校のあいことば「かながえよう! かかわろう! かがやこう!」				
	(知)よさを発揮し粘り強く取り組む子 (徳)自分も友達も大切にする子 (体)心と体を健やかに育む子		(公)上白根のまちに生き ともに歩む子 (開)ともに学び合い高め合う子		
学校概要	創立 51 周年	学校長 小嶋一喜	副校長 菅野光宏	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 350 人		主な関係校: 白根小 四季の森小 上白根北中		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	上白根北中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈自分で考え 判断し 行動する力〉 〈人と豊かに関わり つながる力〉	上白根北中学校 白根小学校 四季の森小学校	自分の気持ちや考えを上手に表現するとともに人の話に耳を傾けてコミュニケーションができ、さらに高い自尊感情をもって自他ともに大切に目標に向かって努力できる子ども ・合同授業研究会を通じた授業改善、授業力の向上。 ・合同研修会を通し、児童・生徒の「親」の共有。 ・教職員間の交流、相互理解。

中期取組目標	○子ども一人ひとりが主体的・対話的に学び、笑顔があふれる学校にします。
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、自己決定を大切にし、主体的に学んだり、創り上げたりできるようにします。 ・子どもたちが、友達・地域の方々・職員等との対話を大切にし、深い学びができるようにします。 ・子どもたちが、やさしい言葉で他者とかがわれるようにします。

重点取組分野		具体的取組
知	授業力向上	①学力学習状況調査の結果から見えてくる児童の姿から朝学習や授業にいかし、学力向上を目指す。②授業の中で、児童が自分で考える場面、表現する場面、児童に委ねる場面を意図的に設定していく。③年度初めに年間指導計画を確認し見直しをもつ。学年担当のチームで、学年の方針を考え、児童の実態に応じて柔軟に活用していく。
担当	学力向上	
徳	人権教育の充実	①年度当初に、発達段階に応じた適切な人権学習の場を計画的に設定する。12月の人権週間に人権について全校に話をする機会を設ける。また、児童の人権意識を高めるために必要に応じて外部機関の協力を得る。②児童の変容を全職員でより深く共有するために、打合せや職員会議で気になる児童の情報を積極的に挙げていく。
担当	なかよし・人権・福祉	
体	健やかな体	①体育科の学習を通じて身につけさせたい力や目指す姿について情報を共有し、児童にも提示する。 ②学習の中での異学年交流等を取り入れ、系統性や見通しを意識した指導を進められる体制を整える。 ③体や心の健康について考えるとともに、自己の課題や成長が感じられる取り組みを、年間通して進める。
担当	体育	
公開	地域連携	①きずなの会の方々や引き続き連携を図り、教育活動を継続する。子どもたちが、より上白根のまちのよさや、地域の方々の協力に目を向けられるようにする。 ②学校運営協議会では話し合った内容を教職員、保護者に伝えていくとともに、内容によっては子どもたちへも発信していく。
担当	教務	
いじめへの対応		①一人ひとりの子どもが安心して過ごせるように見守り、学年担当制を採用し、職員間で情報を共有しながら組織的な対応をする。 ②いじめの未然防止のため、アンケートの実施や面談で子どもたちの理解を深め、子どもたちから出された意見を取り入れながら進める。
担当	児童指導・特別支援	
人材育成・組織運営(働き方)		①経験が浅い職員が担っている役割と期待される成長など、ベテランがその意図をしっかりと伝えフォローしていく。 ②データ化を進めていくことで廃棄を減らし、環境をさらに整備していく。
担当	学校評価	
特別支援教育		①上白根小で、課題と感じていることや特別支援教育についての研修を実施し、学びを実践する。 ②個別級と一般級との連携を強化し、子ども同士の理解を深めていく。 ③子どもたちの実態把握を行い、個別最適な学びを進めながら、学びに系統性をもてるように支援していく。
担当	児童指導・特別支援	
交流活動		①ペア学年を意識するために、意図的な機会を設けていく。「(先生がいるときには他のクラスに入ってもよい)」など明示することも必要)②なかよし活動やなかよしデーの前に担当の先生と打合せする時間を設け、子どもも大人も見直しをもって進められるようにする。③引き続き、なかよしデーの遊びのテーマを設定し、段階的な関わりをつくる。全員がテーマを意識して活動できるように周知する。
担当		
特別活動		①給食週間、読書月間のように期間があらかじめ決まっているものから計画に入れていき、他の月については議題の必要感をもたせるため、年度初めに委員会ごとに原則1つイベントを計画する。 ②委員会やクラブ活動では子どもの主体性や計画力を育てるために教師が選択肢を与えるなど働きかける。
担当	特活	
		b10
担当		